

ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた作戦安値107円水準を下回り105円台に突入しています。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性などといったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、年初

ドル/円相場のトレード戦略

からのドル安は積み上がった円売りポジションの調整にはしばらく時間がかかりそうです。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はないものの、想定レンジを100円～115円程度に下方修正する必要があるようです。

また、昨年から続いてきた三角持合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は108円水準が戻りのめどとなりそうです。

■短期展望

先週は、106円90銭でスタートした後、一時107円30銭まで上昇する局面があったものの、その後は次第にドル軟調な足取りとなりました。

ティラーソン国務長官の解任や予想を下回った米小売売上高がドルの重しとなり、さらにトランプ大統領が中国からの輸入品に対し、新たな関税を検討していると報じられたことで貿易戦争への懸念が強まったこともドル安要因となりました。

日本の政局の行方や貿易戦争への懸念などドルの上値を抑える要因は多く、今週もドルの軟調な動きは続きそうですが、先週と同様に一気に105円を割り込むほどドル売り圧力が強まる可能性は小さいものと思われます。

今週開催の米FOMCでは利上げが確実視されており、さらには利上げ回数が上方修正される可能性もあり、ドルの下値を支える要因となりそうです。

したがって、今週は105円から107円での神経質な取引が続くことを予想します。